

5 各学科の教員配置数に関する調査

全国高等学校農場協会振興局

1. 目的

今回のアンケート調査は、農業関係学科の教員配置の実態を把握するために実施したものである。農業教員は、高校教員としての業務である授業や校務分掌・部活動のほか、教材である生物生産をとまなう農場の管理や育成、実験実習を行う施設や設備の維持管理、さらには地域や中学校・大学・企業等と多様化する連携事業など、農業教員の職務内容は担うべき債務も大きく、多忙を極めている。

このような状況を改善し、生徒に対していきいきとした教員であり続け、充実した農業教育が実践されるためには、各校・各学科に対して適切な農業教員数の配置であるかを調査することが必要である。

今回も昨年に引き続き、表題のアンケートを行い、農業関係高校各校の教諭・実習助手・非正規教員の人数の状況を把握することを目的とした。

2. 調査対象

農業関係学科を設置している高等学校（総合学科を含む）

回答数 372 校（回答率 99.8%） 792 学科

3. 調査結果

（1）教員配置数とクラス数について

表 1. 学科種別教職員配置状況

学科別集計	種別 学科数	正規職員			非正規職員		1 学年当 りのクラス 数
		教諭 平均	実習助 手平均	その他 平均	講師 平均	農務員 平均	
A 農業・園芸系	257	4.47	2.85	0.27	0.69	0.68	1.40
B 環境系	132	3.93	1.46	0.11	0.54	0.19	1.04
C 食品系	133	4.22	1.70	0.08	0.67	0.13	1.05
D 生活系	53	2.89	0.94	0.08	0.33	0.12	1.00
E その他	83	3.85	1.84	1.67	0.73	0.65	1.07
F 総合学科	73	5.07	0.40	0.18	0.96	0.63	—

注 1：学科の分類（A～F）は、各校の判断とした。

注 2：複数にまたがる分野（AD や ABF などの記述）は E に含めた。

注 3：F 総合学科の平均は 1 校あたりの平均である。（クラス数未記入や農業外教員が含まれている回答と思われるものがあつたため）

注 4：クラス数は 1 学年あたりのクラス数とした。未記入の学校は、各校ホームページや農場協会名簿等で確認した。

4. 学科別の概況

A 農業・園芸系

①1 クラス別の教諭の数の平均は 4.47 人と他の学科と比べて多く、4 人や 5 人という数が多かった。これは生産や管理する農場の面積の大きさなど他の学科と比べての措置と思

われる。

②実習助手の人数の平均も他の学科と比べて多かった。これもA①と同様の背景が考えられる。

B 環境系

①教諭の平均が4人を下回っている。これは2人や1人と回答する学校もあったためである。

②実習助手の平均も1.46人とA農業系等やC食品系と比べて少ない。作業機械や刃物類を多く扱う学科のため教諭数と併せて十分な人数とはいえない。

C 食品系

①教諭4.22人とB環境系やD生活系と比較すると多いが1学科として十分な人数といえない。

②実習助手1.70人とこちらも2人を下回っているなど製造機器、衛生管理などの面から十分な人数とはいえない。

D 生活系

①教諭の平均数は最も少ない。これは1人や2人と回答する学校も多く、学科の特性上、専門課程を担当する教諭は家庭科教員であったり、他の学科の教諭が兼務していることが多く、専属の農業の教諭は少ないためと思われる。

②実習助手平均も0.94人と1人を下回っている。こちらも学科の特性上、他の学科との兼務が多いことが考えられる。

E その他

①近年A～Dに当てはまるのが難しく、新しい内容の学科や2つ以上の内容を持ち、2年次より別のコースに分かれるといった学科も多くなっている。参考までにAB6校、AC5校、AD4校、BC2校、AE、BD、CD、CE、CF、ABFが各1校ずつあった。

②内容の多様化のためか実習助手1.84人やその他1.64人と他の学科よりも多い人数になっている。

F 総合学科

①農業学科や他の教科の学科併設している学校と総合学科のみの学校と大きく2種類がある。教諭の人数も1人から26人というところまで様々であった。1校で60人と回答した学校もあったが、学校ホームページや協会名簿より普通科など他の教科の先生も含まれていると判断し、平均算出から除外させていただいた。

②選択科目や少人数の性質上か実習助手の人数も0.40人と極めて低い人数であった。

非正規職員

①この回答については、講師は常勤のものと非常勤もの、農務員に関しては民間対応やヘルパー、障害者雇用など様々なものが含まれていた。

②質問として非正規の職員が多くて安定していないという意図なのか、外部の職員が少しでも加わることで助かっているということなのかははっきりしない質問となってしまった。

5. 教員配置に関して特別な措置・意見など

・教諭や実習教諭の数が足りていない状態で講師や非常勤の先生にお願いし回している状況です。教員や実習の教諭の増員を希望しています。(滋賀県)

・農務員＝会計年度内任用職員(9人)(滋賀県)

・実習教諭・実習助手・臨時実習助手：年間の祝祭日に特勤業務に入る。(滋賀県)

6. 今回のアンケートの課題

- ・「クラス数」という項目について1学年あたりなのか学校全体なのかを明記すべきだった。回答が2通りになってしまった。
- ・統廃合が決定し、移行期になっていると思われる学科や学校と思われる回答があった。具体的にはクラス数が3の倍数(3学年)でなく、5や13などという回答である。また、定時制を意味すると思われる4という回答もあり、今後は区別が必要である。
- ・アンケートを依頼するにあたって旧校名のままでシートをお渡ししたところがあった。反省し、改善したい。

7. まとめ

昨年の資料を見ると、「今年で3年目の調査であるが、都道府県の調査を積み重ねた結果、しっかりとしたデータを得られるようになり、さらに細かい分析ができるようになった。」という記述がある。今回は、4年目ということになるが、調査者として感じたことは2点ある。1つはこのアンケートの本来の目的である農業教員(教諭、実習助手、農務員、技師等)が適正な人数であるのかということが、学科の人数平均だけでは判断できないということである。そのためには、5にある「教員配置に関して特別な措置・意見など」で困っているのか、十分なのかを確認する必要がある。

2点目は、学科の区分がA~Dの枠に当てはまらない学科が増加していることである。丁寧に回答シートに学科名を記したり、AB、ACなど混合した学科であることを記述いただいた学校、県もあり、回答される先生も迷われていると思われる。

今回、コロナ禍にあり、振興局として十分な協議ができなかったが、今後は、各校の状況に寄り添ったアンケートにしていくよう更に検討を進めたい。アンケートにご回答いただきました各校の農場代表、各都道府県の取りまとめの先生方に感謝申し上げます。